

## 「ブナ等山取苗の植え付け」を実施 ～『土湯の森』の自然再生に向けて～

小雨まじりの空模様となった7月8日（水）最上川スキー場跡地の森林を回復させるため、約300本の「山取苗の植え付け」を行いました。

当日は戸沢中学校の一年生と先生のほか、地元住民や神室山系自然を守る会など約90名の参加をいただき実施しています。

とりわけ戸沢村では自然体験活動を通じた子供たちの



客土を入れて

りながら植穴に土を入れ、ブナなどを植栽しました。

スキー場跡地での植え付けは、土壌が少なく自然の状態では森林の回復が遅れると判断された箇所で行ったもので、今年で2年目となります。

ここで植えた木は、秋に計画しているモニタリング調査で生育状況を確認して、今後の取組内容を検討していくこととしています。

予定数量を植えた後、戸沢村の里山にある食材をふんだんに使って料理された「おにぎり汁物」の説明を聞きながら、おいしい昼食をいただきました。



参加者の皆さん



植え付け方法の説明（海藤氏）

社会力の向上にも力を入れており、今回参加してくれた中学生の中には、小学校の時に稚樹の山取に参加してくれた生徒も多くいました。

植え付けに入る前に協議会委員の海藤氏から作業方法の説明と「元気に育ってくれるよう丁寧に植え付けをして欲しい。」との話しがされた後、参加者はドロンコになり



みんなで植え付け

この事業は「みどり環境税」の交付を受けて 実施しています。

### ● 森の再生に・中学生がブナの植え付け

戸沢村では、スキー場の跡地に 森を再生しようと、きょう中学生たちがブナの植栽を行いました。  
この植栽は、森林の再生活動を通して、生徒たちに自然の大切さを学んでもらおうと、東北森林管理局が2年前から行っています。きょうは、戸沢村立古口中学校の生徒など、およそ80人が最上川スキー場の跡地に300本のブナの苗木を一本一本丁寧に植えつけました。

参加した生徒は 生徒53人

きょう植え付けられたブナの苗木は、およそ50年から100年かけて森林に成長していくという事です。(8日15:56)

